

平成30年度  
公立大学法人首都大学東京  
業務実績評価書（案）

# I 全体評価

## 【全体評価】

平成30年度は、第三期中期目標期間の2年目として、中期計画に基づいた年度計画を順調に実施している。

### ●優れた点・特色ある点

- 公立大学法人首都大学東京を取り巻く社会情勢や東京都の「見える化改革」の分析結果を踏まえ、令和2年度より大学・法人の名称を変更する方針や中期計画の変更案を早急に検討し、策定したことは高く評価できる。
- 首都大学東京では、教学 IR<sup>1</sup>システムの掲載データが、平成29年度に比べ大幅に増加し、学長の意思決定に活用されるとともに、入試戦略など各運営委員会や部局の施策の検討に利用され、大学の活性化に大いに役立っている点が高く評価できる。
- 産業技術大学院大学では、グローバル PBL<sup>2</sup>の充実を目指し、アジア各地やヨーロッパで PBL を実施するとともに、アジア・アフリカ地域の大学等との連携を深め、PBL 型教育を紹介することで、両地域の産業人材育成に寄与している点が評価できる。
- 東京都立産業技術高等専門学校では、社会の人材ニーズを踏まえた新たな職業教育プログラムとして、「情報セキュリティ技術者育成プログラム」と「航空技術者育成プログラム」を着実に実施している点が評価できる。

### ●更なる充実が期待される点

- 公立大学法人首都大学東京の運営は、トップマネジメントの強化にとどまらず、各大学・高専の意向に沿った柔軟な対応ができるようにも配慮されている。今後も、各校が行う教育研究の質の向上を図る意欲的な取組をより一層支援していくことが望まれる。

## 1 総 評

- 平成30年度は、公立大学法人首都大学東京（以下「法人」という。）の業務が、順調に進められた1年であったと評価する。特に、法人を取り巻く社会情勢や東京都の「見える化改革」の分析結果を踏まえ、令和2年度より大学・法人の名称を変更する方針や中期計画の変更案を早急に検討し、策定したことは高く評価できる。
- 法人が設置した首都大学東京（以下「首都大」という。）、産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）及び東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）の2大学1高専は、

<sup>1</sup> Institutional Research の略。教学 IR とは、大学の計画策定、意思決定等を支援するための情報を提供する目的で、教育・学修に関するデータを対象として調査・分析を行うこと。

<sup>2</sup> Project Based Learning の略。実社会で即戦力として活躍できる人材を育成するために有効な教育手法。数名の学生が明確な目標を掲げ、1つのプロジェクトを完成させていくことで、実社会で真に役立つ知識や技術を修得する。

各校の特色を生かしながらバランスよく教育、研究及び社会貢献活動を精力的に行っている。

- 国際化への取組、リカレント教育への取組も積極的である。国際化については、2大学1高専とも人材育成や共同研究を積極的に進めている。リカレント教育については、首都大の「TMU プレミアム・カレッジ」と産技大の「AIIT シニアスタートアッププログラム」への都民の期待は非常に大きい。

### 【首都大学東京】

- 首都大では、平成 30 年度に教育研究組織の再編を行ったが、新カリキュラムによる教育に加え、再編前のカリキュラムも着実に実施している。また、大学院では分野横断プログラムを創設しており、大学院生の視野を広げ、応用力を身に付けさせる試みとして、今後の発展が期待できる。
- 教学 IR システムの掲載データが、平成 29 年度に比べ大幅に増加し、学長の意思決定に活用されるとともに、入試戦略など各運営委員会や部局の施策の検討に利用され、大学の活性化に大いに役立っている。
- 高いレベルの研究論文が公表されているため、被引用度の高いトップ 10%論文の割合は目標の 10%以上を維持している。また、国際共著論文の割合も 47.6%と目標の 33%を大きく超えており、国際的な研究が予想を上回る速さで進められている。さらに、研究センター等での分野横断的・学際的な研究プロジェクトも順調に進められており、外部資金獲得額の目標（平成 26～28 年度の平均獲得額比で 150%以上）を上回っている。
- 50 歳以上を対象とした TMU プレミアム・カレッジの開講準備が進められ、50 名の定員に対し 329 名という多くの応募者を得ることができた。生涯を通じて学ぶというスタイルを社会に対して発信し、人生 100 年時代の学びの在り方を牽引する取組として、発展していくことが期待される。

### 【産業技術大学院大学】

- 産技大では、シニア世代のリカレント教育の場である AIIT シニアスタートアッププログラムを開設し、26 名の修了生を輩出した。
- グローバル PBL の充実を目指し、アジア各地やヨーロッパで PBL を実施するとともに、アジア・アフリカ地域の大学等との連携を深め、PBL 型教育を紹介することで、両地域の産業人材育成に寄与している。

### 【東京都立産業技術高等専門学校】

- 産技高専では、社会の人材ニーズを踏まえた新たな職業教育プログラムとして、「情報セキュリティ技術者育成プログラム」と「航空技術者育成プログラム」を着実に実施している。
- 学生グループによる課外活動を経済的に支援することで、未来工房及び未来工房ジュニアへの応募者数が大幅に増加するなど、課外活動に積極的に取り組む学生が増大している。これらの課外活動は学生の主体的な学びの大切な場の1つとなるとともに、多くの賞の受賞は対外的なPRにもなっている。

### 【法人の業務運営等】

- 長年の課題であった認知度の向上やプレゼンスの向上が、大学・法人の名称変更により、大きく推進される可能性が高まった。広報戦略の充実とともに、「国際化」や「シニア層の学習ニーズ」等に対応するための各種取組が着実に推進されることを期待する。
- 法人運営は、トップマネジメントの強化にとどまらず、各大学・高専の意向に沿った柔軟な対応ができるようにも配慮されている。今後も、各校が行う教育研究の質の向上を図る意欲的な取組をより一層支援していくことが望まれる。

## 2 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望など

- 1つの法人が、性質、特色の異なる3つの高等教育機関を運営している利点を生かし、各校の連携・協力が一層深まり、効率的・効果的な事業展開が図られることを期待する。
- 中期計画達成に向けて、順調に進捗している事項は多く、既に目標を達成しているものもある。引き続き、中期計画の達成やより充実した取組の推進が期待されるとともに、東京都の教育研究機関として、東京都をはじめとする自治体や都内の企業を支える機能が発揮されることが望まれる。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が近づいてきており、2大学1高専では、大会へのボランティア参加や障害者スポーツの普及振興など、大会に対する機運が醸成されてきている。都立の2大学1高専の学生・教職員の多くの方が、大会を実感できるような機会を設けることで、帰属意識や問題意識が高まり、日常の学修・教育・研究・経営活動に生かされることを期待する。
- 首都大の科学研究費補助金の新規採択率は、国による研究種目の見直し等もあり、平成 28 年度以前と比較すると、低位に推移している。今後も学内で更なる分析を進め、様々な支援の検討が求められる。

## Ⅱ 項目別評価

## 【項目別評価】

### ① 業務実績の検証

項目別評価を実施するにあたって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。  
 検証にあたっては、年度計画及び中期計画に記載されている各項目の業務の実績について、中期計画の進捗・達成状況及び成果・効果を確認するとともに、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。

検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

### ② 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗・達成状況及び成果・効果を大項目ごとに1～5の5段階で評価した。

## 【年度評価】（評定・評語・説明）

評定	評語	説明
1	年度計画を大幅に上回って実施している。	顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	年度計画を上回って実施している。	年度計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは年度計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	年度計画を順調に実施している。	達成度が概ね100%程度と認められるもの
4	年度計画を十分に実施できていない。	年度計画を計画通り実施できていないもの 実績・成果が年度計画を下回っているもの
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。	公立大学分科会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、中期計画を前倒して実施するなど、戦略性が高く意欲的な年度計画を積極的に実施するなどの、その取組に注目すべき内容が認められるもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった年度計画について達成したもの等

年度計画の大項目ごとの評定及び評定説明は、以下のとおりである。中期計画の項目に沿って記載する。

## I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
1	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
2	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育改革を推進する取組の強化	1
3	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 学修支援環境の整備 ◇ 教育の質の改善	3
4	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
5	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

## 【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

- 【大項目1】平成30年度に学部・大学院を再編し、新カリキュラムポリシーに基づく教育を着実に実施している。
- 【大項目1】シラバスの整備やTA制度の充実を通して教育環境の整備に努めている。

- 【大項目 1】大学院分野横断プログラムを新規に開講し、募集人数を上回る履修者数を確保できた。
- 【大項目 1】教育改革推進事業により、組織的なアクティブ・ラーニングの導入を推進するとともに、その成果や課題を全学で共有するなど、取組を学内全体に生かす機会を設けている。
- 【大項目 1】現場体験型インターンシップの学生数、受入件数ともに拡充している。
- 【大項目 2】教学 IR システムの掲載データが、平成 29 年度に比べ大幅に増加し、学長の意思決定に活用されるとともに、入試戦略など各運営委員会や部局の施策の検討に利用され、大学の活性化に大いに役立っている。
- 【大項目 2】博士研究員制度、専門研究員制度の運用準備、キャリア形成科目の開講準備、キャリアパスの提示に関わる取組など、博士後期課程の活性化が進んだ。
- 【大項目 3】FD 活動において、セミナー開催数、参加人数とも平成 29 年度の成果を更に伸ばさせた。
- 【大項目 4】ボランティアプログラムに継続して参加する学生に対し、年次ごとに役割を設けることで、個々の学生のボランティアリーダー力や組織力の向上を図ることができている。
- 【大項目 4】支援や配慮を必要とする学生に対する事務対応フローや配慮申請書の作成により、安心して学ぶ環境を整備するための体制を強化した。
- 【大項目 4】幹部教職員向けにダイバーシティ講習会を開催し、障害やセクシャル・マイノリティに関する理解を促進した。
- 【大項目 5】教学 IR を活用し、入試結果の得点分布やアンケートの分析結果を用いて、既存の入試制度の見直しと新たな入試制度の検討を行った。
- 【大項目 5】大学説明会について、来場者アンケート等の分析・検証結果などを踏まえ、開催方法やプログラムの改善を行うことで、平成 29 年度よりも 1,200 人程度多い 26,000 人程度が来場した。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目 2】博士後期課程の活性化について、今後、大学院生が、自身のキャリアについて考え、将来を展望できるように、引き続き、キャリア形成に関わる科目の充実、多様なキャリアパスの提示等が推進されることが期待される。
- 【大項目 3】試験的に導入した四半期授業を実施できる学年暦や科目ナンバリングの成果の分析が期待される。
- 【大項目 4】OBOG ネットワークの登録者について、年々増加傾向にあるものの、新規登録者数は減少していることから、引き続き、魅力あるネットワークとなるための仕掛けや工夫が期待される。
- 【大項目 5】高大連携事業として、東京都教育委員会との包括連携に関する協定が締結され、2 つの事業が実施された。今後の更なる活動の充実により、大学における学生確保につながることを期待される。

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
6	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	2
7	研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	3

**【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目 6】被引用度の高いトップ 10%論文の割合について、過去 5 年平均で目標の 10%以上をクリアしている。また、国際共著論文の割合も、目標の 33%以上を大きく上回る、47.6%に達している。

- 【大項目6】研究センター等での分野横断的・学際的な研究プロジェクトが順調に進められ、外部資金獲得額は目標（平成26～28年度の平均獲得額比で150%以上）を上回っている。
- 【大項目6】都民に学術研究成果を発信する機会として既に開講しているオープンユニバーシティ特別講座に加え、高校生向けに講座を開講するための準備が進められている。
- 【大項目7】10回の国際シンポジウムを開催し、海外研究者30名の招へいを行うなど、国際共同研究体制を構築するための基盤強化を図った。
- 【大項目7】女性教員比率は年々高まっており、平成30年度には20.5%となり、20%以上という目標を達成した。

**（更なる充実が期待される点）**

- 【大項目6】オープンユニバーシティの高校生向け講座については、高校生に対する大学のPR機会となるとともに、キャリア形成支援に資することから、今後の取組に期待する。
- 【大項目7】研究センターに所属する外国人研究者は平成29年度に比べて増加しているが、目標の30%に達するよう、更なる努力が望まれる。

**（改善すべき点）**

- 【大項目7】科学研究費補助金の新規採択率は、国による研究種目の見直し等もあり、平成28年度以前と比較すると、低位に推移している。今後も学内で更なる分析を進め、様々な支援の検討が求められる。

**3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
8	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
9	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

**【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**（優れた点・特色ある点）**

- 【大項目8】学内施設である体育館等を有効に利用し、障害者スポーツの理解促進・裾野拡大に向けた取組を実施している。
- 【大項目8】東京都との連携事業に係る運営費交付金及び外部資金収入が減少している中、東京都との連携事業数は増大しており、都政に貢献している。
- 【大項目9】50歳以上を対象としたTMUプレミアム・カレッジの開講準備を進め、充実したプログラムのほか、効果的な広報やイベント等の効果もあり、50名定員のところ329名の応募を得た。
- 【大項目9】大学発ベンチャーの育成に注力し、令和元年度設立の目処がたった。

**（更なる充実が期待される点）**

- 【大項目8】パラスポーツをより多くの人が楽しむことができるよう、自治体と連携した事業の充実など、更なる取組が期待される。
- 【大項目8】東京都との連携事業を推進し、大学の知見を都政に還元するには、適正な規模の事業経費を獲得することが重要である。今後の発展に期待したい。
- 【大項目9】TMUプレミアム・カレッジが、大学の特性を生かした、高齢期の魅力的な学びの場として確立していくことを期待する。

#### 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
10	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の国際通用性 ◇ 学生の海外派遣の拡充 ◇ 外国人留学生の受入れ	3
11	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇ 海外の大学等との連携 ◇ 都市外交を支えるネットワーク形成 ◇ キャンパスの国際化	2

#### 【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目10】中長期留学の阻害要因や課題について、学生の意識調査結果を分析するとともに、特に課題である留学費用等の経済面の支援に関する情報提供の充実や、経済支援学生数の拡大を行った。</p> <p>○【大項目10】日本留学フェアへの出展等の広報展開や、都市外交人材育成基金の活用により受入留学生数は着実に増加している。</p> <p>○【大項目11】交流重点校を指定し、教育・研究交流の深化に向けた取組を行っている。</p> <p>○【大項目11】新たに国際交流プログラム「グローバル・コミュニケーション・キャンプ」を立ち上げ、学内公募で採択されたプログラムに、65名の学生が参加した。</p> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <p>○【大項目10】引き続き、受入留学生数を増やすための効果的な広報活動の分析や充実が期待される。</p> <p>○【大項目11】外国人教員比率について、目標の5%以上に対して、平成29年度に引き続き3.7%であった。外国人教員比率に関する学内での課題認識の共有が行われていることから、今後、比率を上げるための具体的な方策について、検討が進むことが期待される。</p>
---

## II 産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
12	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
13	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備 ◇ 首都大学東京及び東京都立産業技術高等専門学校との連携	3
14	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇ 教育の評価・改善	3
15	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
16	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目1 2】研究科再編を決定し、企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新たな学位プログラムを含む新専攻全体のカリキュラム体系と授業科目を設計するなど、準備を進めた。</li> <li>○【大項目1 2】アクティブ・ラーニングの導入に積極的に取り組み、導入科目の合計数は全科目数の80%を超えている。</li> <li>○【大項目1 3】第2期 enPiT「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」について、参加校が1校から7校へと拡大するなど、第1期で培った教材やノウハウを活用し、着実に事業を発展させている。</li> <li>○【大項目1 4】授業評価アンケートが、過去最高の平均4.33（5段階評価）となり、継続して学生から高い評価を得ている。</li> <li>○【大項目1 4】教育の質の向上にむけたFDフォーラムに、教員が積極的に参加している。</li> <li>○【大項目1 5】1年生全員に対して面談を行うなど、充実した指導が行われている。</li> <li>○【大項目1 5】キャリアメンター制度の設計を行い、試行的に実施するなど、きめ細やかなキャリア形成支援を行う体制を整えた。</li> <li>○【大項目1 6】100社を超える企業訪問、効果的な広報活動、説明会の開催により、多くの志願者を得ることができ、定員の確保につながっている。</li> </ul> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目1 3】首都大及び産技高専との連携強化が期待される。</li> <li>○【大項目1 5】キャリアメンター制度について、課題が見つかった場合のメンター役に対するバックアップ体制等、本格実施に向けた体制整備が期待される。</li> </ul>		
---	--	--

2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
17	研究に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目1 7】教員がPBL研究会等へ積極的に参加するなど、独自の高度専門職人材の育成方法の開発が進められている。</li> <li>○【大項目1 7】専攻横断型の4研究所を着実に運営し、産業振興支援に取り組んでいる。</li> </ul> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目1 7】AIIT 高度専門職人材教育研究センターの設置に向けた準備が着実に進んでおり、今後の取組が期待される。</li> </ul>		
---	--	--

3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
18	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
19	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目18】都や区市町村と連携して、自治体等が主催する講座やイベントに参加し、企業振興や技術支援に貢献している。また、教員が自治体職員等の研修に講師として参加し、人材育成に貢献している。</p> <p>○【大項目19】シニア世代のリカレント教育の場である AITT シニアスタートアッププログラムを開設し、26名の修了生を輩出した。</p> <p>○【大項目19】リカレント教育を促進する取組の一環として、修了後も大学と修了生、あるいは修了生同士が繋がり、修了後の専門能力の向上を図る場である修了生コミュニティの実施体制を整えた。</p> <p>○【大項目19】AITT マンスリーフォーラムを開催し、継続的な修学の場を提供した結果、多くの参加者を得た。</p>	
--	--

4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
20	グローバル化に関する目標を達成するための措置	1

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目20】アジア諸国に加え、イギリスのグラスゴー美術大学でグローバル PBL を実施するなど、新たな取組を推進している。</p> <p>○【大項目20】アジア・アフリカ地域の大学等との連携を深めるとともに、視察を多数受け入れるなど、PBL 型教育を紹介することで、両地域の産業人材育成に寄与している。</p>	
--	--

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
21	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	1
22	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育システムの継続的な改善 ◇他の教育機関等との連携	3
23	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の質の評価・改善	3
24	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2
25	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	3

【評定説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <p>○【大項目21】情報セキュリティプログラム修了生 10 名全員が、進学又は情報セキュリティ関連企業へ就職するなど、産業界や社会のニーズに応じた人材を輩出している。</p>	
--	--

- 【大項目2 1】航空技術者育成プログラムにおいて、第一期生全員が航空機関連企業へインターンシップを行うなど、取組が着実に進んでいる。
- 【大項目2 1】教員に対するサポート体制を構築したことで、アクティブ・ラーニング導入科目を拡大した。
- 【大項目2 2】都立工業高校を卒業した学生を編入生として受け入れている。入学前に数学及び専門科目の教員がフォローアップ授業を行っている点は注目される。
- 【大項目2 2】情報セキュリティに関するリカレント教育実施に向けた取組を行い、産技高専卒業生のフォローアップ体制を整備した。
- 【大項目2 3】学生の学習到達度を明確化し、教員自身の自己評価と学生による評価を基に、授業改善に取り組んでいる。
- 【大項目2 3】新任・昇任・管理職研修への参加率が100%を達成した。
- 【大項目2 4】学生グループによる課外活動を経済的に支援することで、未来工房及び未来工房ジュニアへの応募者数が大幅に増加するなど、課外活動に積極的に取り組む学生が増大している。
- 【大項目2 4】学生のメンタル面の課題について、多面的に情報提供を行っている。また、課題を抱える学生には、関係者が連携を取りながらチームで対応するなど、予防や適切な対応に結びつけている。
- 【大項目2 5】各地元教育委員会を通して、特別推薦入試制度の拡充に向けた取組が順調に進んでいる。
- 【大項目2 5】女子学生確保に向けて、ホームページへの女子学生インタビューの掲載、学校見学会や説明会での女子学生向けブースの開設等を行った。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目2 4】相談ニーズを踏まえた、相談・バックアップ体制を充実させるなど、安心して学ぶことのできる環境整備が進むことを期待する。
- 【大項目2 5】引き続き女子学生向けの広報を充実させて、志願者確保につながることを期待される。

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評定
2 6	研究に関する目標を達成するための措置	3

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目2 6】首都大及び産技大との連携による共同研究が進められ、大学教員等の指導・助言を受けて研究課題を遂行し、国内外の国際会議で成果発表を行っている。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目2 6】科学研究費補助金について、新規採択率が向上したものの、申請件数は減少していることから、申請書類作成の支援等を充実させることで、申請件数を増やしていくことを期待する。

### 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 番号	取組事項	評価
27	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
28	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

#### 【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目27】中学生を対象とした体験型情報セキュリティ研修を実施し、中学3年生の参加者14名中10名が入試に合格するなど、志望校決定の契機となっている。</li> <li>○【大項目27】学校や企業を対象とした出前授業を積極的に行うとともに、国や自治体等が主催するイベントを理科・技術サポーターとして支援した。</li> <li>○【大項目28】大田区及び品川区と連携して、地域のものづくり技術者に向けた講座を開催し、多くの参加者を得るとともに、新たに、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座を開始した。</li> <li>○【大項目28】警視庁と連携して、品川区の中小企業経営者向けに「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を開催し、情報セキュリティ技術者育成プログラム履修生がアシスタントとして参加した。</li> </ul>
---

### 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 番号	取組事項	評価
29	グローバル化に関する目標を達成するための措置	3

#### 【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目29】国際的に活躍できる技術者の育成に向けて再編した2つの海外体験プログラムで、合計70名の学生(首都大及び産技大の6名を含む。)が参加した。渡航前後の教育を含め、丁寧な指導により、確実に学生の能力が向上している。</li> </ul>
--

IV～VII 法人運営全般に係る目標を達成するためにとるべき措置

大項目 番号	取組事項	評価
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
30	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	2
31	教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置	3
32	事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置	3
V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
33	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置		
34	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置		
35	その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目30】法人を取り巻く社会情勢や東京都の「見える化改革」の分析結果を踏まえ、令和2年度より大学・法人の名称を変更することを決定し、各大学・高専の認知度やプレゼンスの向上を図る取組について具体的な準備に着手した。</li> <li>○【大項目30】監事監査を強化するとともに、コンプライアンスの確保・向上のため、監査・内部統制担当者を増員した。</li> <li>○【大項目30】首都大において、中堅教職員、学生などから広く意見、アイデアを収集し、学長を中心に今後のあるべき姿の議論を重ね、2030年における大学の将来像「TMU Vision 2030」を策定した。</li> <li>○【大項目30】首都大において、教学IR推進室による各運営委員会や部局からの分析依頼への対応、情報発信、セミナー開催等の取組を通じて、全学的な教学マネジメントサイクルが着実に推進されている。</li> <li>○【大項目31】高い専門性と豊富な実務経験を有する人材確保のため、首都大と産技大で指名人事による採用を6件行った。</li> <li>○【大項目32】業務の効率化やライフ・ワーク・バランス推進のため、テレワークやテレビ会議システムの試行を行った。</li> <li>○【大項目33】公開講座やTMUプレミアム・カレッジの開講等、首都大の学術資産を用いることで自己収入の増加が図られた。</li> <li>○【大項目33】産学公連携センターとURA室等との連携で、首都大の共同研究・受託研究による外部資金獲得は、第二期中期目標期間の平均の154%に達した。</li> <li>○【大項目34】教学IRを活用した、客観データに基づく新たな自己点検・評価活動を実施している。</li> <li>○【大項目35】ハラスメント防止の意識啓発について、研修、リーフレット作成等、多様な方法で取り組んでいる。</li> </ul>
--

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目30】広報戦略の充実とともに、「国際化」や「シニア層の学習ニーズ」等に対応するための各種取組が着実に推進されることを期待する。
- 【大項目31】2大学1高専の連携について、大学・高専連携会議を設けて、連携の在り方についての検討が行われているところであるが、引き続き、2大学1高専が設置されている法人の強みを生かした取組が推進されることが期待される。
- 【大項目32】テレワークの本格実施に向け、試行結果を踏まえた運用ルールづくり、職員への周知等を行い、ライフ・ワーク・バランスに資する職員の多様な働き方が進むことが期待される。
- 【大項目33】インターネットを介して寄附ができる仕組みを導入するなど、一般寄附金の増収に向けた取組を実施しているが、寄附件数は少ない。寄附目的を明確にし、同窓生や保護者をはじめ、多くの方に支援していただけるような仕組みづくりが期待される。
- 【大項目34】様々な広報活動により、ホームページのアクセス数やSNSのフォロワー数が着実に伸びているが、今後も一層の取組を期待する。
- 【大項目35】ハラスメント相談内容から課題を分析し、効果的な防止策や相談支援体制を充実させていくことが期待される。
- 【大項目35】研究不正行為・研究費不正使用の防止に向けた取組を、より一層進められたい。研究不正行為・研究費不正使用が発生すると、大学・高専のイメージダウンとなることを深く認識し、不正が発生しない体制や仕組みづくりが徹底されることを期待する。
- 【大項目35】情報セキュリティ及び個人情報保護について、過去の教訓を生かして取り組んでいるが、過去に事故が起きた部署のみならず、法人全体として対策の一層の徹底に取り組まれたい。

## 平成30年度公立大学法人首都大学東京業務実績評価書(案)

## 項目別評価 評価

## (1) 評価結果

評価		30年度		(項目数内訳)			
段階	評語	項目数	割合	首都大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	3	9%	1	1	1	0
2	年度計画を上回って実施している	10	29%	5	3	1	1
3	年度計画を順調に実施している	22	63%	5	5	7	5
4	十分に実施できていない	0	0%	0	0	0	0
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0	0	0
項目数		35	100%	11	9	9	6

## (2) 評価項目

首都大学東京(11項目)	評価
教育関連	
①教育内容及び教育の成果等	2
②教育の実施体制等 (教育改革を推進する取組の強化)	1
③教育の実施体制等 (学修支援環境・教育の質の改善)	3
④学生への支援	3
⑤入学者選抜	2
研究関連	
⑥研究水準及び研究の成果等	2
⑦研究実施体制等	3
社会貢献関連	
⑧都政との連携	3
⑨社会貢献等	2
グローバル化関連	
⑩教育の国際通用性等	3
⑪海外の大学等との連携	2

産業技術大学院大学(9項目)	評価
教育関連	
①教育内容及び教育の成果等	2
②教育の実施体制等 (産業界や他大学等との連携等)	3
③教育の実施体制等 (教育の評価・改善)	3
④学生への支援	3
⑤入学者選抜	2
研究関連	
⑥研究	3
社会貢献関連	
⑦都政との連携	3
⑧社会貢献等	2
グローバル化関連	
⑨グローバル化	1

都立産業技術高等専門学校(9項目)	評価
教育関連	
①教育内容及び教育の成果等	1
②教育の実施体制等 (教育システムの継続的な改善等)	3
③教育の実施体制等 (教育の質の評価・改善)	3
④学生への支援	2
⑤入学者選抜	3
研究関連	
⑥研究	3
社会貢献関連	
⑦都政との連携	3
⑧社会貢献等	3
グローバル化関連	
⑨グローバル化	3

法人の業務運営等(6項目)	評価		評価
業務運営		自己点検・評価及び情報の提供	
①組織運営の改善	2	⑤自己点検・評価及び情報の提供	3
②教育研究組織の見直し等	3	その他業務運営	
③事務の効率化・合理化等	3	⑥その他業務運営	3
財務内容			
④財務内容の改善	3		

## (参考) 平成29年度業務実績評価結果

評価		29年度		(項目数内訳)			
段階	評語	項目数	割合	首都大	産技大	産技高専	法人運営
1	年度計画を大幅に上回って実施している	2	6%	1	0	1	0
2	年度計画を上回って実施している	11	31%	3	5	3	0
3	年度計画を順調に実施している	21	60%	7	4	5	5
4	十分に実施できていない	1	3%	0	0	0	1
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である	0	0%	0	0	0	0
項目数		35	100%	11	9	9	6